
プロフェッショナル人材事業・事業報告書
「第1回 転職者情報交換会」報告

平成31年2月

長野県プロフェッショナル人材戦略拠点

本報告書の目的と概要

- 平成27年11月に発足した長野県プロフェッショナル人材戦略拠点では、県内企業の成長戦略の実現に向け、企業が求める専門的な技術や知識等を持つプロフェッショナル人材(以下プロ人材という)の活用ニーズを掘り起こし、都市部からのプロ人材の地方還流(UIJターン)を進めてきた。
- 今般、4年目を迎えるに当たり、今後の事業がプロ人材にとってより魅力的で人材の地方還流を更に加速できるよう、プロ人材の転職に関する満足度を中心に現時点までの評価を行った。
- 具体的には、受け入れたプロ人材181名に対しアンケート調査を実施し、勤務先企業の満足度やその内容、入社前後のギャップ、地域や行政に対する感想や要望などを尋ねた。36名からの回答を得て、その分析を元に22名参加のもと情報交換会を実施し、各転職者からの具体的な生の声を聞いた。
- 本報告書では、下に示した通り、受入企業の概要並びにアンケート結果、それを踏まえての情報交換会の内容等をまとめ、最後にこれらを通じての事業の評価を行った。

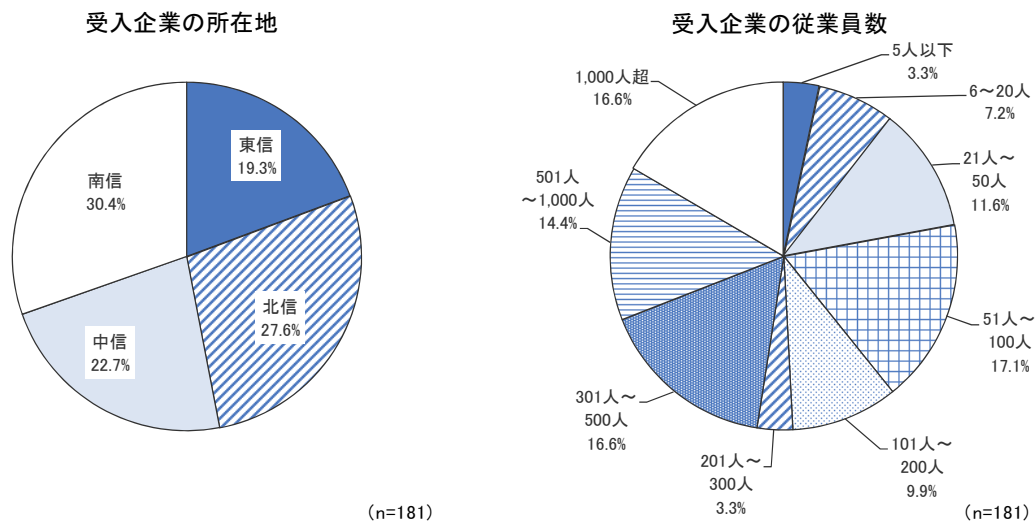
本報告書の内容

1. 長野県内における受入企業属性
2. 長野県内におけるプロ人材属性
3. プロ人材へのアンケート調査結果
 - (1)アンケート回答者の年代・勤務形態
 - (2)アンケート回答者の転居について
 - (3)情報収集手段
 - (4)企業の選択理由
 - (5)入社前の求人情報と入社後の勤務実態との相違
 - (6)勤務先企業に対する満足度
 - (7)満足している点と改善を望む点
 - (8)会社を選んだ理由にギャップは生じていないか
 - (9)勤務先企業の満足度と入社前後の相違度
 - (10)勤務先企業の満足度とその内容について
 - (11)勤務先企業への不満と改善を望む点
 - (12)県内の生活環境に対する感想、行政への要望等
 - (13)まとめ～アンケートに見る転職者の満足度と課題
4. 情報交換会
 - (1)転職の動機
 - (2)勤務先企業に対して
 - (3)行政・地域に対して
5. アンケート並びに情報交換会からの事業の評価

1. 長野県内における受入企業属性

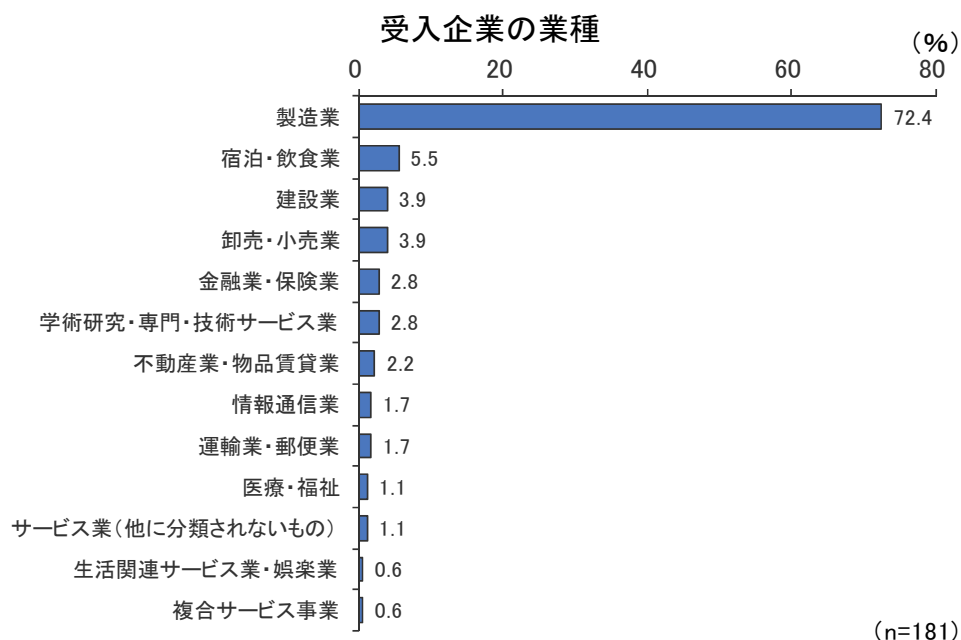
(1) 受入企業の所在地と規模

- 2018年12月末時点で、181人の受け入れとなっている。
- 受入企業の所在地は南信が最も多く3割を占めるが、ほぼ全域の企業で受け入れている。
- 受入企業は300人以下の中小企業が52.4%と、「攻めの経営」への転身を図っている。



(2) 受入企業の業種

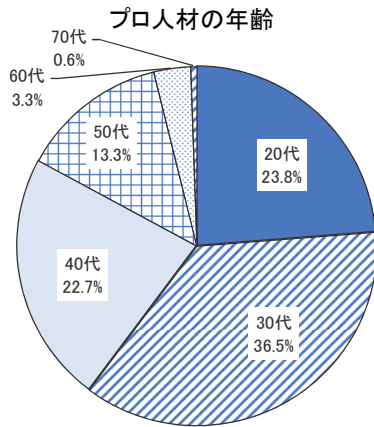
- 受入企業の業種は、製造業が72.4%と多く、事業革新や新商品開発などの取組に積極的にチャレンジする「攻めの経営」への転身を図っている企業が多いと考えられる。



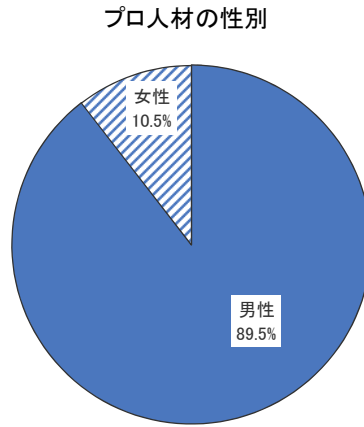
2. 長野県内におけるプロフェッショナル人材属性

(1) プロフェッショナル人材の年齢・性別・転職前居住地

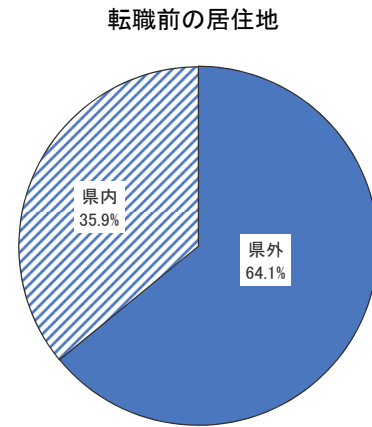
- プロ人材の年齢は、30代を中心に20代、40代、50代と続く。
- 性別では、男性が89.5%と多いが、およそ1割は女性となっている。
- 転職前の居住地は、64.1%が県外であり、優秀な人材が長野県に還流し地方創生の一助となっていることがわかる。



(n=181)



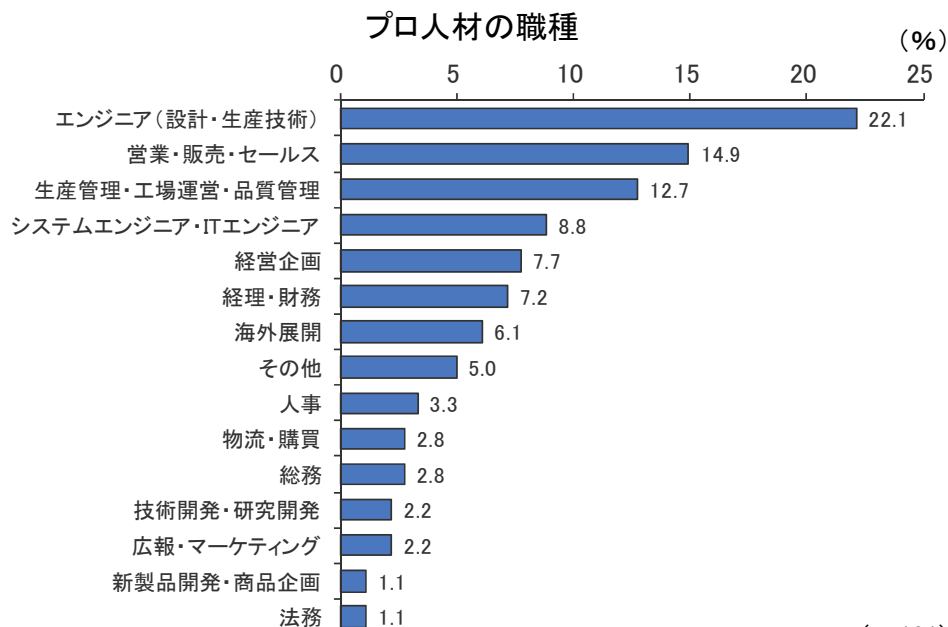
(n=181)



(n=181)

(2) プロフェッショナル人材の職種

- プロフェッショナル人材の職種は、エンジニア(設計・生産技術)が22.1%と最も多く、次いで営業・販売・セールス14.9%、生産管理・工場運営・品質管理12.7%と続く。



(n=181)

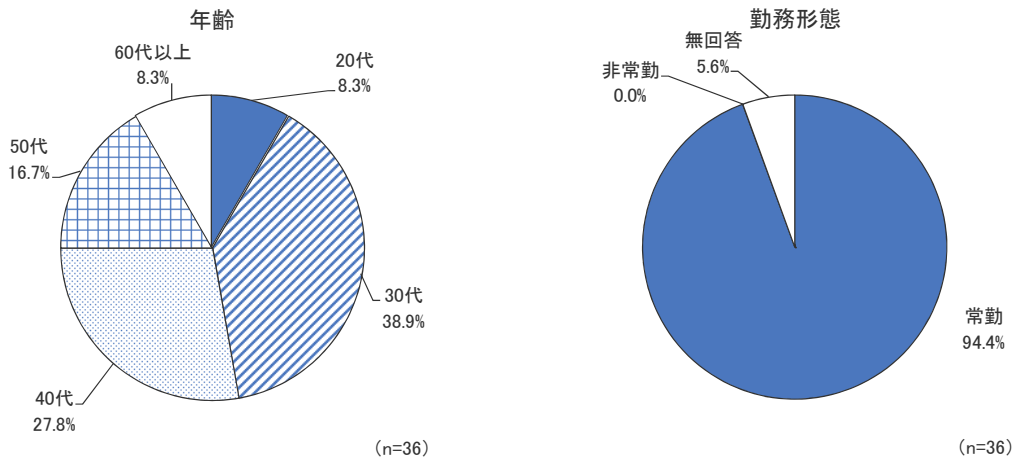
3. プロフェッショナル人材へのアンケート調査結果

<調査の概要>

- 実施期間：平成30年11月中旬～平成30年12月末
- 実施方法：郵送、ファックスによる
- 対象者／回答者数：拠点を通じて転職をした181名／36名

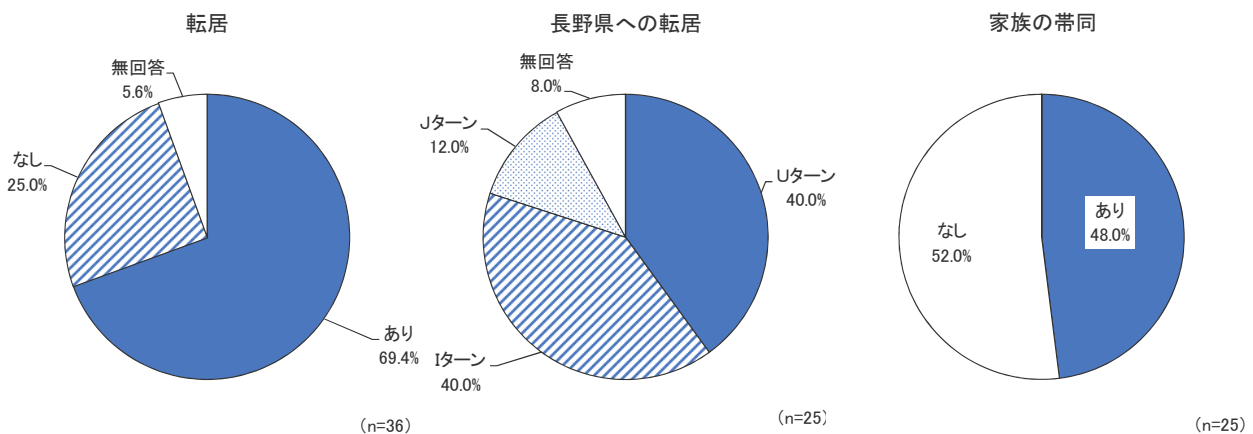
(1) アンケート回答者の年代・勤務形態

- 年代別回答では、全受入者の割合と比較し20代は8.3%と少ない。
- 勤務形態では、無回答を除くと全員が常勤との回答。



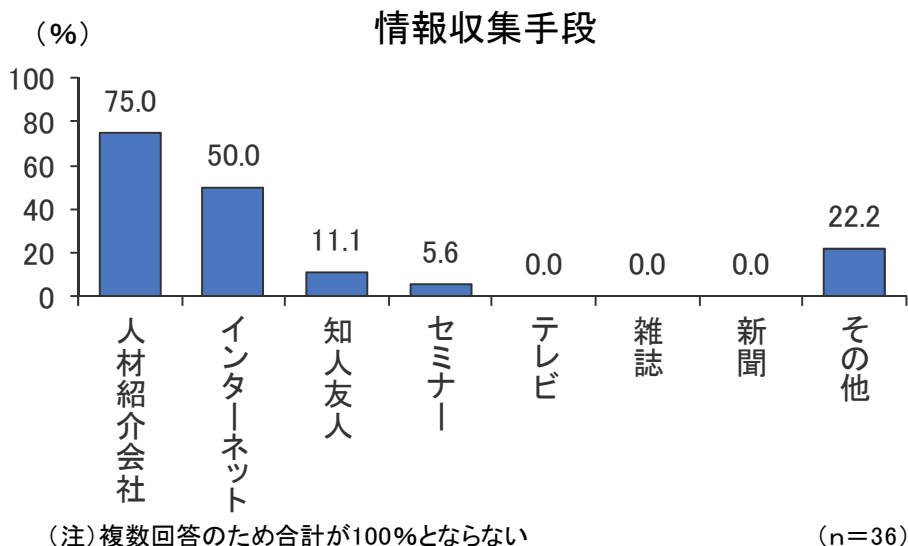
(2) アンケート回答者の転居について

- 転居については、69.4%があり。
- 転居が「あり」との回答者のうち、Uターン者は40.0%、Iターン者は40.0%、Jターン者は12.0%となっている。
- 転居が「あり」との回答者のうち、家族の帯同は48.0%となっており、居住地域に関する生活に関する情報提供などが求められる。



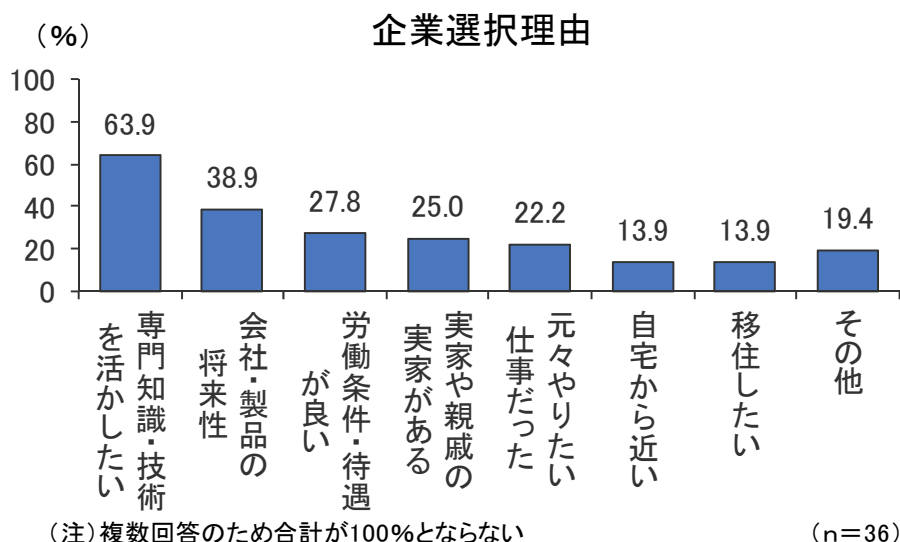
(3) 情報収集手段

- 情報収集手段は、「人材紹介会社」が75.0%と最も多く、次いで「インターネット」が50.0%となった。
- 銀座NAGANOにおける企業紹介や住居紹介が「その他」でみられた。



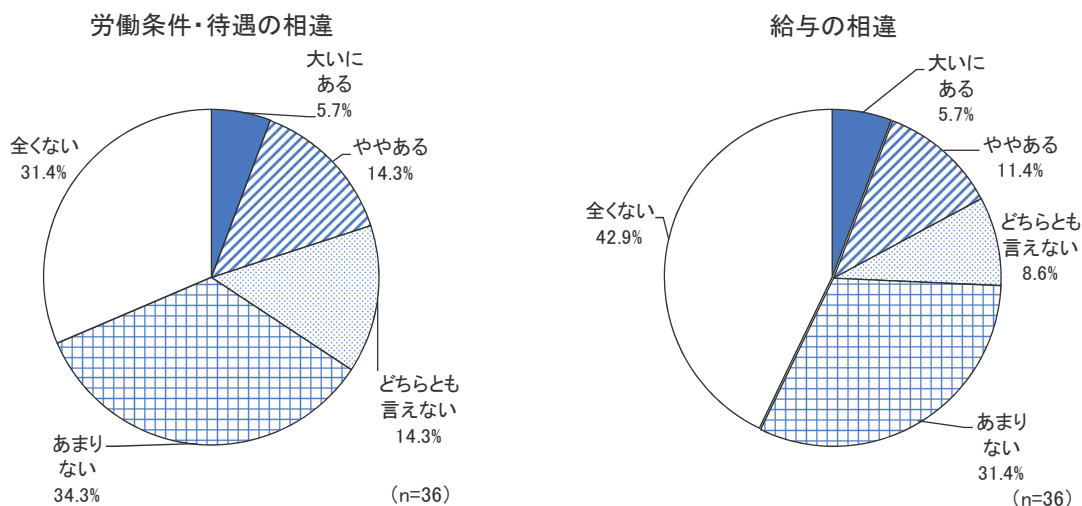
(4) 企業の選択理由

- 最も多くの理由は「専門知識・技術を活かしたい」が63.9%であり、前述のように製造業で高いスキルを活かしていることが分る。
- 次いで、「会社・製品の将来性」(38.9%)、「労働条件・待遇が良い」(27.8%)と、将来性の高い企業が県内に多いことが推察される。



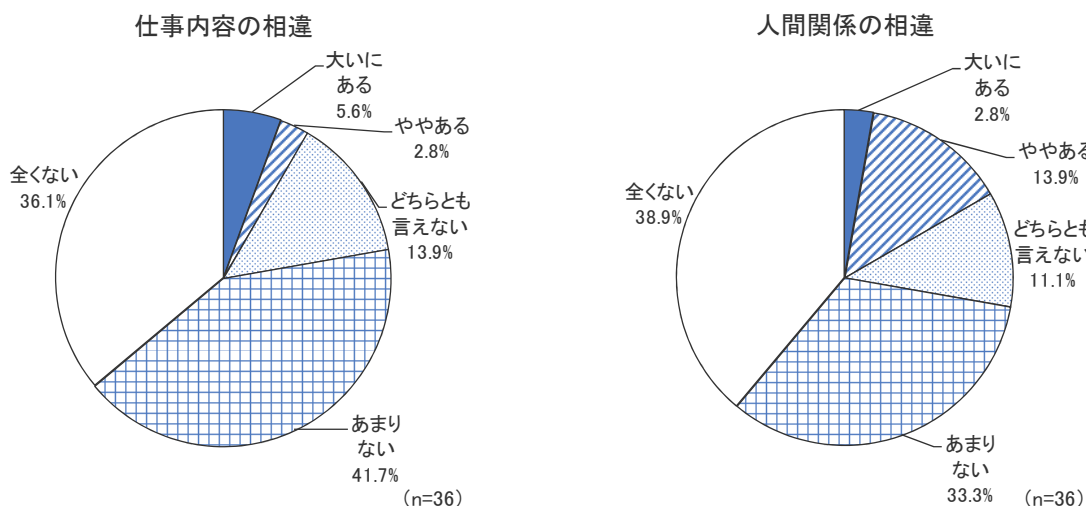
(5)①入社前の求人情報と入社後の勤務実態との相違

- 「労働条件・待遇の相違」の有無は、「全くない」(31.4%)と「あまりない」(34.3%)を合計した「相違なし」が65.7%と大層だが、「大いにある」(5.7%)、「ややある」(14.3%)を合計した「相違あり」も20.0%となっている。
- 「給与の相違」でも、「全くない」(42.9%)と「あまりない」(31.4%)を合計した「相違なし」が74.3%と大層だが、「大いにある」(5.7%)、「ややある」(11.4%)を合計した「相違あり」も17.1%となっている。



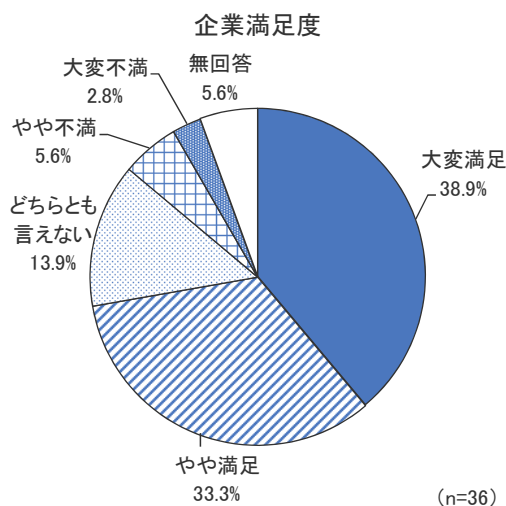
②入社前の求人情報と入社後の勤務実態との相違

- 「仕事内容の相違」では、「相違なし」が77.8%と大層だが、「大いにある」(5.6%)、「ややある」(2.8%)と8.4%が「相違あり」としている。
- 「人間関係の相違」でも、「相違なし」が72.2%と大層だが、「大いにある」(2.8%)、「ややある」(13.9%)と16.7%が「相違あり」となっている。
- 前頁も併せた4つの内容で相違を比較すると、「大いにある」「ややある」を合わせた「相違あり」の割合は「仕事内容」が最も少なく、事前の情報が比較的正確に伝わっていることがうかがわれる。



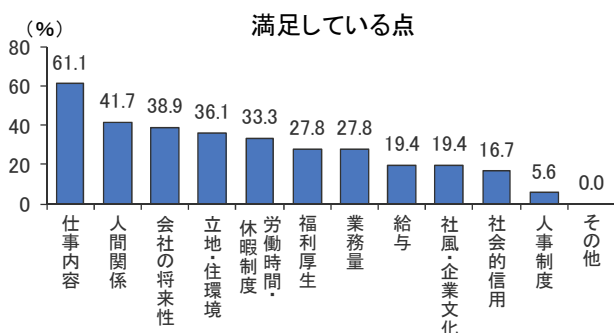
(6) 勤務先企業に対する満足度

- 勤務先企業に対する満足度では、「大変満足」(38.9%)、「やや満足」(33.3%)と「満足」の割合は72.2%と高い。
- 一方、「大変不満」(2.8%)、「やや不満」(5.6%)と「不満」の割合は8.4%と低い割合である。
- 人材に対するマッチングの7割は上手くいっていると考えられる。
- 「不満」と回答した人材には、直接その理由などを確認しながら、対応を検討する必要がある。



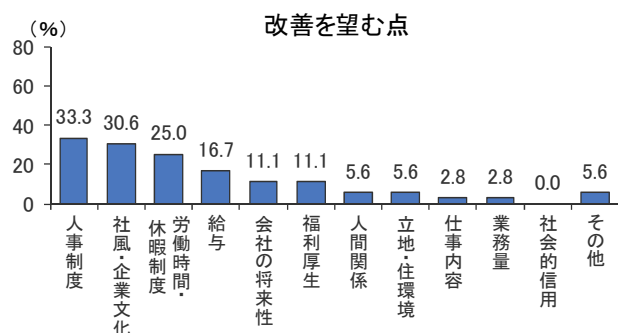
(7) 満足している点と改善を望む点

- 満足している点では、「仕事内容」、「人間関係」、「会社の将来性」、「立地・住環境」、「労働時間・休暇制度」など。
- 改善を望む点では、「人事制度」、「社風・企業文化」、「労働時間・休暇制度」など。
- 「人事制度」で満足しているとする回答は5.6%と僅かなことから、「人事制度」に関する見直しや改善が求められる企業もある。



(注) 複数回答のため合計が100%とならない

(n=36)

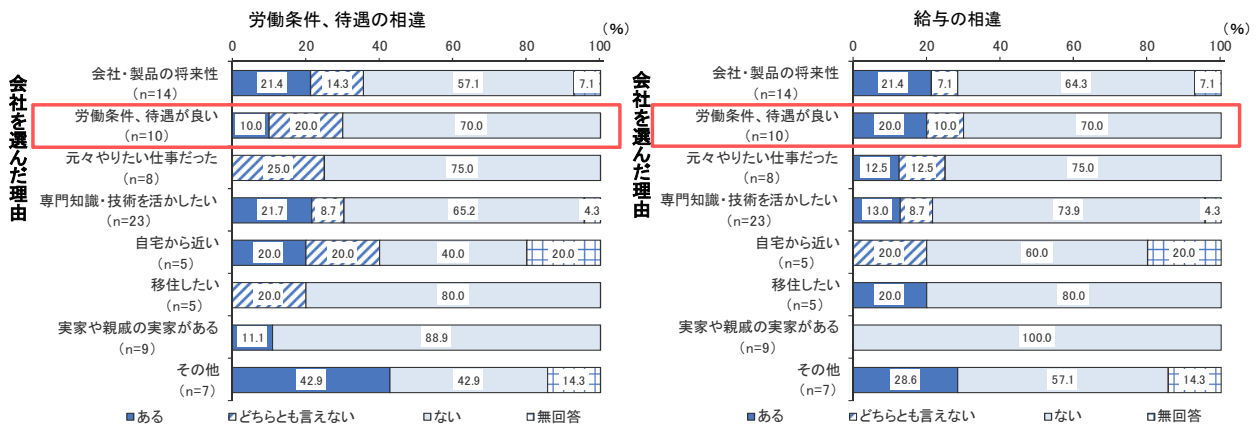


(注) 複数回答のため合計が100%とならない

(n=36)

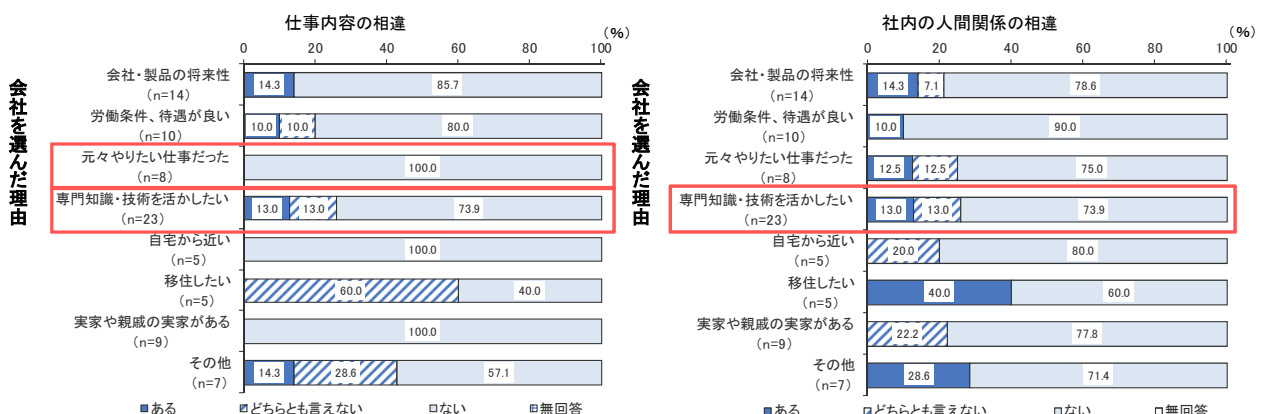
(8)①会社を選んだ理由にギャップは生じていないか

- 会社の選定理由別（縦軸）に、入社前後の労働条件・待遇などの相違度（横軸）との関係を分析し、選んだ理由にギャップが生じていないかを確認をした。
- 「労働条件・待遇が良い」という入社理由に対して、同じ「労働条件・待遇の相違」について見ると、「ない」との回答が7割と概ねギャップは少ないことがうかがえる。
- 同じく「労働条件・待遇が良い」という入社理由に対して、「給与の相違」について見ると、7割が「ない」と回答しており、労働条件の一つである給与面でも概ねギャップが少ないことが分る。



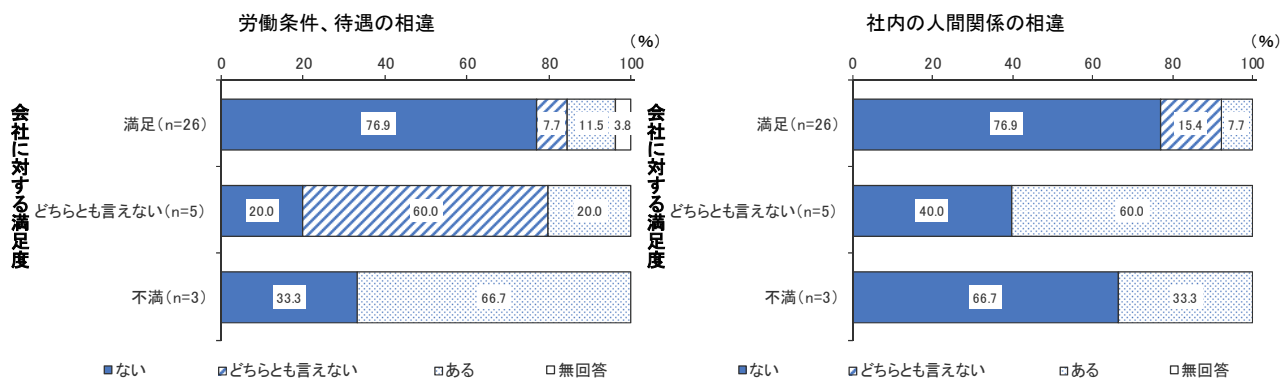
②会社を選んだ理由にギャップは生じていないか

- 「元々やりたい仕事だった」という入社理由に対して、「仕事内容の相違」を見ると100%が「ない」と回答しており、希望の仕事を叶えられていることが分る。
- 「専門知識・技術を活かしたい」という入社理由に対しては、「仕事内容の相違」が13%で「ある」と回答しており、一部ギャップが見られる。
- 「社内の人間関係の相違」から、各入社理由を見ると「専門知識・技術を活かしたい」で23人の内の13.0%に当たる3名が「あり」としており、他の理由よりも人間関係でギャップを感じる人数が多くなっている。



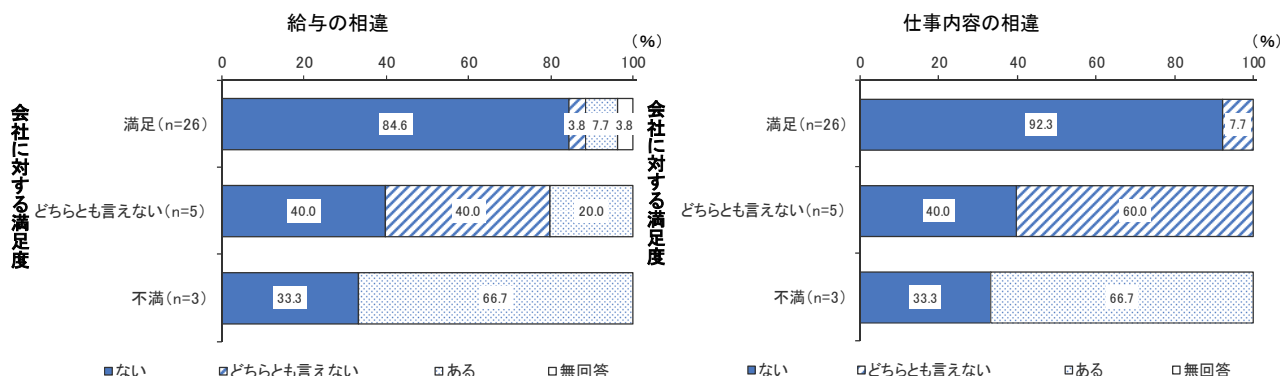
(9)①勤務先企業の満足度と入社前後の相違度

- 勤務先企業に対する満足度(縦軸)と入社前後の相違度(横軸)の関係を分析し、入社前後の相違度の満足度への影響を調べた。
- 当然の結果ではあるが、「労働条件・待遇の相違」「社内の人間関係の相違」「給与の相違」「仕事内容の相違」など4項目において、「満足」と感じる人は、入社前後での相違が「ない」と回答する割合が高いことが分る。



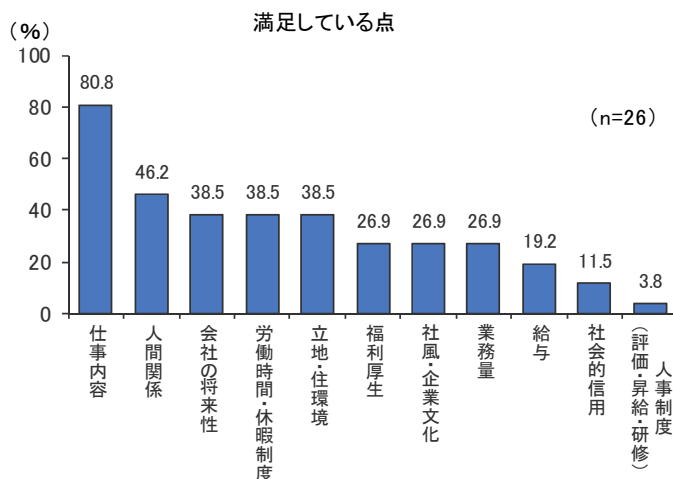
②勤務先企業の満足度と入社前後の相違度

- 「満足」と回答した場合には、「仕事内容での相違」を答える回答はない。逆に言うと「仕事内容の相違」がある場合には、「満足」とはならないものと考えられる。
- 一方、「労働条件・待遇の相違」「社内の人間関係の相違」「給与の相違」があっても「満足」との回答もある。
- 転職での満足度を上げるためには、転職前後の「仕事内容」のギャップがすくないことが重要である。



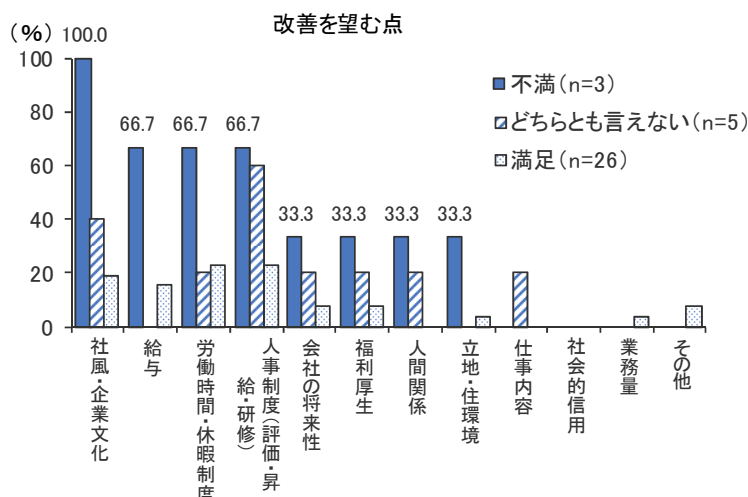
(10) 勤務先企業の満足度とその内容について

- 勤務先企業に対して「満足」と回答した人の「満足している点」は下記の通りである。
- 勤務先企業で「満足」と感じている人の80.8%は、「仕事内容」についても満足している。
- 同様に「人間関係」では46.2%、「会社の将来性」38.5%、労働時間・休暇制度」38.5%、「立地・住環境」38.5%と続く。



(11) 勤務先企業への不満と改善を望む点

- 勤務先企業に対して「改善を望む点」について、勤務先企業に対する評価別（「満足」「どちらとも言えない」「不満」）に見た。
- 「不満」とする回答数は3と少ないが、「社風・企業文化」「給与」「労働時間・休暇制度」「人事制度」などに改善を望んでいる。
- 同様に、勤務先企業に対して「満足」と回答する場合でも、2割程度の回答では、「社風・企業文化」「給与」「労働時間・休暇制度」「人事制度」等に対して改善を望んでいる。



(12) 長野県内の生活環境に対する感想、行政への要望等

① 県外から転居した者の長野県の生活環境、社会インフラ等の感想・要望

居住地	感想・要望
北信	・大変住みやすく、交通の便も悪くなく、生活しやすい場所だと感じました。
南信	・山に囲まれた環境での生活に憧れていたため住環境にはとても満足しています。ただ、大きな違いは車社会の為、夜に外で食事する機会が激減し、期待したほど地場の食材を楽しむ機会が少ないのが残念です。 ・ゴミ出しが慣れるまでは非常に面倒でした。
中信	・生活環境や通勤時間などはかなり満足度が高いです。生活に必要なものはすべてそろっています。
中信	・電車が発達していないので車が必須。都市部でも都市ガスではなくほぼプロパンガスなので冬の光熱費が異常に高くなるが、それほど寒くはないので冬の生活も出費が多くなるが生活に違和感はない。
中信	・もともと長野で育ちましたが、しばらく長野を離れ都内での生活が長かった為、しばらくは交通手段等での不便さは感じましたが、慣れれば「雨は少ないし、夏は涼しい、雪も思ったより少ない」と思いました。 ・また、ご近所さんとのお付き合いが増えたのは良いことだと思います。
南信	・電車等公共交通機関を利用する生活から車社会へ生活スタイルが大変化
中信	・車で生活するには非常に便利で住みやすい。自然が美しい。バス・電車等の交通インフラは少ないので不便さはある。地方都市の中では物価が高い。

居住地	感想・要望
東信	・生活環境は特に問題はない。社会インフラについて公共交通機関・情報量についてやや不満がある。
中信	・学生時代から25年間、長野県にはよく来ていました。周囲にも第二の故郷と言っていたくらい愛着を感じています。 ・生活上特に不便はなく公私ともに充実した生活ができています。
南信	・車がないと生活できない。鉄道や地域ごとの交通インフラをよくすることは重要。
北信	・長野県の中でも移住した村は豪雪地帯のため、初めて迎える冬を無事越せばいいなと思います。
東信	・自然が多く暮らしやすい。行政の対応も丁寧である。
南信	・電車(飯田線)が不便。県内の移動手段が車のみで不安。 ・中央本線(あずさ)の運行が不便。東京日帰り出張が困難。
北信	・大都市圏と単純比較できないが、中心市街地の公共交通の整備が不十分(バリアフリー、路線ダイヤなど)であり、車社会ありきの街づくりを強く感じる。 ・自らの住む町・自治体の5~10年後、その先の姿が見えない。 ・転居した直後の今は、外から来た新鮮な気持ち(観光客視点)でいられるが、ある程度経過したとき都市部生活の利点・利便性を改めて感じることもあるかもしれない。 ・長野市に子連れで安心して、一拠点で買い物ができる商業施設(ショッピングセンター)がなく不便を感じる。長野都市圏で一つもないことに驚いた。

居住地	感想・要望
南信	<ul style="list-style-type: none"> ・実際には中信に実家があり、前回、首都圏に単身赴任した際も住所はこちらに置いたままでしたので、そちらと比較しての感想です。 ・やはり首都圏と比べ、気候・人間性は住みやすいと感じています。インフラについては比べようもありませんが、逆の言い方をするとこちらでは車がつかえますのでそんなに不便ではありません。 ・アパート代も首都圏と違って駐車場代が含まれている点も良いと思います。上伊那はごみの出し方が難しいですね。また、どこにいつ何を出していいのかが非常にわかりにくいです。ここだけは首都圏の方がよかったです。
北信	<ul style="list-style-type: none"> ・朝早く、夜も早い印象が強い。 ・また電車も本数が少なく、車なしでの生活は考えられない。 ・地域内の関係性が非常に密な地域です。
北信	<ul style="list-style-type: none"> ・大型商業施設が少ない。休日に子どもが遊べる施設が増えるとうれしいです。
東信	<ul style="list-style-type: none"> ・普通に生活する点では不満はありません。ただ、閉鎖的という感じがします。
東信	<ul style="list-style-type: none"> ・地方都市としては仕方ないことですが、公共交通機関の脆弱性は課題と感じます。
北信	<ul style="list-style-type: none"> ・特に不自由を感じたことはありません。 ・電車・バスの本数が少ないことにより自然と車での移動が多くなり、常に道路が渋滞している印象があります。

②行政に対する要望や移住・転職希望者に対するアドバイス等

居住地	要望・アドバイス等
南信	<ul style="list-style-type: none"> ・求職活動をスタートさせたのが年初でしたが、求人情報を探すのに苦労しました。結局は求人サイトから地場のエージェントと知り合ってインタビューの上、活動していただいた経緯があります。私のように全く違った環境で働いてみたいという人は多いと思うので、そういった人達にどのように情報発信していくか、引き続き課題ではないかと思えます。
中信	<ul style="list-style-type: none"> ・真冬でも必要のない冬用タイヤが必須、冬の光熱費の高騰など冬季に出費が多くなります。
中信	<ul style="list-style-type: none"> ・長野県はインフラ面で弱い部分があるため、免許返納をする必要がある高齢者、または障がい者に対する補助、または対策等を講じてあげて欲しい。 ・通院等での交通手段が日に2本しかない路線バスを使うのは現実的ではない。
南信	<ul style="list-style-type: none"> ・南信地域の募集情報が少ないように感じます。
中信	<ul style="list-style-type: none"> ・能力・技術を有していても、前職と企業文化・風土等が相違していることが当たり前です。自身の中でしっかり割り切る姿勢が大切だと思います。
中信	<ul style="list-style-type: none"> ・移住者同士が交流できるコミュニティが多くあれば良い。都会に比べて移住者が孤立してしまう可能性が高い。また、そのようなコミュニティがすでに充実しているのであれば、その情報発信(ネット、新聞、張り紙、SNS)を充実してほしい。
南信	<ul style="list-style-type: none"> ・経験豊富、技術力のある高齢者、若い人で移住したいと思っている方々と交流機会が作れるといいのでは。

居住地	要望・アドバイス等
北信	・前職は自己都合による退職のため、転職できるまでの期間の生活(特に県民・市民税の支払い負担が大きく)がとても厳しく、不安を抱きながら過ごしていたので、安心して活動ができるサポートがあるとうれしい。
東信	・長野県民は、最初とつきにくい感じはありますが素直で優しい人が多いです。相手を思いやる気持ちを持って接すればその気持ちを汲んで身内のように接してくれます。一期一会を重んじる人が多いからだと思います。
中信	・どこでもそれぞれの暮らしのよさがあると思いますが、長野県は環境がよく暮らしやすいと感じています。是非一度、多くの方に長野での暮らしを体験していただきたいと考えています。
県外	・県民はどここの県に出ても長野愛の強い人が多い印象。長野県への観光、誘致を進めていただきたい
北信	・長野県はサポートやフォローがしっかりしていると思います。
北信	・現状の職場でいろいろと悩んだり不安をもっている場合、思い切って転職の決断をするのは決して「逃げ」ではないと考えます。自身の能力を発揮できる企業と巡り合うことで、少しでも多くの方によりよい人生を歩んで頂けたらと思います。
南信	・ハローワーク(伊那)の狭い縄張り意識を強く感じた。よそ者(県外からくる人間)にとっては近寄りづらい。また、地域のハローワーク同士が連携しておらず全国レベルの人の流動に対応できていないと感じた。

居住地	要望・アドバイス等
北信	・転居前に車の調達でディーラーと商談しなければなりませんが、移動の旅費等に何らかの支援があると良いと思います。(私の場合は、3~4回車の商談のために東京-長野間を往復しました)
北信	・超高齢社会に向け、車社会の街づくりは、若者のみならず高齢者の都市流出も一層加速させてしまう。 ・転職に至るまでの約2年ほど、銀座NAGANOの移住相談に通ったが、いずれのご担当者も真摯かつ的確なアドバイスの対応をしてくださり、本当に感謝している。移住相談は、私にとって大いに役立つ施策だった。首都圏在住の移住・転職希望者についても、本施策を積極的に活用することを勧めたい。
南信	・ごみの出し方、特に搬出先が分かりにくい。昔の町名などで記載されても、新たに転入した者にはわかりません。また私のアパート周辺には個人経営のお店もないため、こういった情報を集めるすべがありませんでした。以前住んでいた藤澤市では近所のお店で教えてもらいました。
北信	・都心から移住してくる人たちへは特に、密度の濃い地域社会について教えてくれる人を付けるなど、独自の文化を理解してもらう働きかけが自治体等に求められると思う。
東信	・行政に対して、市役所の土日祝日または平日の営業時間の延長等を希望。
北信	・県外からの就業者の受け入れに関する企業への助成金制度、個人への住宅取得優遇制度の周知を強化

③その他、意見・要望

居住地	意見・要望等
南信	・人の交流や流動は会社や経済の活性化のために欠かせないものと感じています。特に、特定の能力・技能を持つ高齢者や定年退職者が長野県内の新しい職場を見つけやすい環境づくりに期待しています
北信	・県外からのUIJターン転職者との交流は、転職先企業のコミュニティでは分かち合えない貴重な時間と感じる。 ・情報交換会は、今回限りで終了ではなく、継続して行って行きたいと考えるため、当拠点を通じて是非人材交流の場を設けていただきたい。
南信	・住所を移動していないので、正確にはJターンと言ってよいのかわかりませんが、やはり長野県は良いところだと思います。 ・ただし、アパート代(駐車場代)などを除く物価は決して安くはありません。
北信	・情報交換会を大変に楽しみにしております。

(13)まとめ～アンケートに見る転職者の満足度と課題

- 企業の選択理由で最も多い回答は「専門知識・技術を活かしたい」。
- 転職後の企業への総合満足度は72.2%、入社前の求人情報と入社後の勤務実態との相違でおよそ7割が無いと回答している。
- 特に「仕事内容」での満足度は最も高く、また、それが高い場合には、総合満足度も高くなっている。さらに、「やりたい仕事」を理由に転職した人については、入社前の求人情報と入社後の「仕事内容」の相違も全くない結果となっている。
- 逆に「仕事内容」や「給与」について入社前の求人情報と入社後の勤務実態との相違がある場合には、「大変満足」回答する人はいなかった。
- 一方、「人事制度」については、改善を望む声は多く、企業において転職者採用の場合には公平公正な評価・処遇への取り組みが求められる。
- 「社風・企業文化」に対する改善を望む声も多く、総合満足度で「不満」とする主な要因となっている。この点について企業の改善が求められるが、アンケート回答での「前職と企業文化・風土等が相違していることが当たり前。自身の中でしっかり割り切る姿勢が大切」との意見は示唆に富む。

4. 転職者情報交換会

■ 実施概要

- 開催日時：平成31年1月23日(水)15:00～17:00
- 場所：ホテルメトロポリタン長野
- 参加転職者人数：22名
- 情報交換会内容

①あいさつ／長野県プロフェッショナル人材戦略拠点

②基調講演／「アンケートからみた転職者の共通課題と新たな職場で活躍するために」

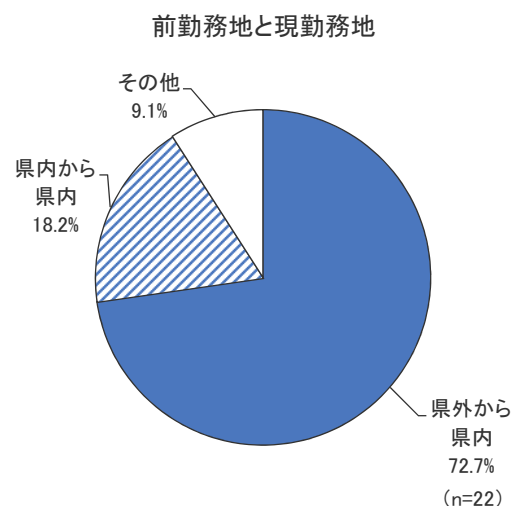
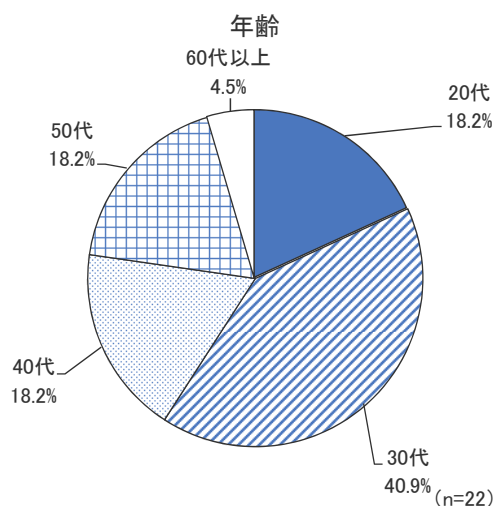
長野経済研究所 理事・調査部長 小澤 吉則

③グループ討議／モデレーター 長野経済研究所 所員3名

④長野県の移住推進施策について／長野県企画振興部 地域振興課
楽園信州・移住推進室

■ 情報交換会参加者の属性

- 情報交換会参加者の年齢は、30代(40.9%)を中心に、20代、40代、50代が18.2%となっており、県内への受入者全体とほぼ同じ割合での参加状況であった。
- 前勤務地と現勤務地では、県外から県内が72.7%、県内から県内が18.2%となっている。



■ グループ討議内容

(1) 自己紹介・転職の動機

(2) 勤務先企業に対して

- ① 改善等求めること
- ② 勤務先企業で心がけていること、頑張っていること
- ③ 勤務先企業に対する満足度と良いと思っていること

(3) 行政・地域に対して

- ① 改善等求めること、要望事項
- ② 行政、地域に対し良かったと思うこと

■ グループ討議により出された主な意見

(1) 転職の動機

- 子供が誕生し、子育てを考えて長野県企業に転職、移住した(多数)。
- 転職を考えていた際に、自分の強みを活かせる長野県内の企業を紹介してもらった。
- 大手企業で全国転勤を繰り返し、単身赴任が多くなったため、今後の人生を家族との充実した暮らしにしたかったため。
- 銀座NAGANOでの丁寧な情報提供、転職支援があった
- ウィンタースポーツなどの趣味があり、それらが満喫できる長野県への移住を希望し、転職した。
- 妻の出身地が長野県であった。
- 妻関係の親族が長野県にいたことから。
- 自然災害の増加からリスクの多い首都圏から、生まれ故郷へUターンをした。
- 定年退職を機に、長野県へのUターンを決意。本事業とのタイミングとも合致。

(2) 勤務先企業に対して

① 改善を求めること

- 公平公正な評価・処遇ができる人事制度の導入。
- 頑張ったら頑張ったことが報われる人事制度への改革。
- 合理的でない年功序列制度の見直し。
- 一方的な業務指導や、「黙って言う事を聞け」という昔ながらの人材育成方法。
- コーチング的な指導方法の導入。
- 外部企業を誘致した筈の工業団地に水道がないなど、環境面で大いに問題がある。
- 転職者の採用後の活躍のフィールドが十分でなく、活躍しきれない。
- 俗人的となっている仕事のノウハウのデータベース化が必要。
- 新規営業に対する会社の能力が低く、高める必要がある。

② 勤務先企業で心がけていること、頑張っていること

- 前職の経験や知識を活かし、現職で改善が必要な点は意見具申を行っている。
- 分からないことは素直に分からないという事で、コミュニケーションを円滑にしている。
- マネージャーとして転職したが、転職先企業で先輩に対してはリスペクトしている。また、現場の声を大切にしながら、各社員のやりたいことを十分にやってもらうようにしている。
- 信頼を得るために周りの意見を出来るだけ聞いて、独善的な行動をしないように心がけている。
- とにかく仕事上のミスがないように心がけている。
- 転職先企業の技術をできるだけ早く吸収できるように努力している。
- 質問をされたら、素早いレスポンスを心がけている。
- 改革をするにしても、会社の伝統を重んじながら行っている。

③勤務先企業に対する満足度と良いと思っていること

- 勤務先企業に対する満足度はとても高い(多数)。
- 中小企業のため、経営にスピード感があり好ましい(多数)。
- フレンドリーで風通しが良い組織である。
- 柔軟な働き方がされており、ワークライフバランスが向上した。
- 休みが取りやすく、家族と過ごす時間が多くなった。
- 福利厚生が良く、高速道路を利用した通勤も9割補助していただいている。
- 地域のCSRをしっかりとっており、地域から信頼されている企業であり、嬉しい。
- 真面目な社員が多く、都会の様に策略などの行為を行う者はいない。
- 社内のコミュニケーションが密であり、働きやすい職場となっており、好ましい。
- 専門性を活かせる、仕事を任せてもらえ、やりがいがある。

(3) 行政・地域に対して

①改善等求めること、要望事項

- 公共交通を中心に、生活インフラの整備が不十分であり、整備を望みたい。
- 車社会であるため、長野市、松本市などの渋滞が頻繁にあり、改善を求める。
- 右折車が優先されるなど、自動車を運転することが危険。
- ガソリンを中心とした燃料代(生活費)が思った以上にかかる。
- 鉄道にて、私鉄とJRの連結が悪い。
- 豪雪地域であるが、融雪パイプやロードヒーティングがない。
- 公共施設で、地元の人が申し込まないと使えない箇所がある。
- 子育て支援策が長野市と千曲市では大きく異なる。
- 九州に実家があるが、松本空港の福岡便が午後2本しかない。
- 地元の企業間連携を強め、ものづくり力をアップする施策。
- 行政毎の横の連携が必要に思う。

②良かったと思うこと

- 住んでいる地域に不満はない。ご近所には良い人が多く、親切にしてもらっている(多数)。
 - 地域コミュニティが良好で、住み易い。
 - 新幹線沿線沿いは東京に近く、生活、仕事やし易い。
 - スーパーでの野菜が非常に新鮮でおいしい。
 - 要所要所にスーパーが立地しており、便利である。
 - 雪の捨て場所を教えてくれる等、困った事を助けてくれる。
 - 近所の付き合いが増えて、生活が充実している。
 - 家で採れた野菜などをいただけ、地域の人間関係が暖かい。
 - 子供が十分にリラックスし、遊べる場所が多くて好ましい。他の人にも薦めたい地域であると思う。
 - 銀座NAGANOでは懇切丁寧に勤務先紹介並び、移住のための住居紹介など支援をもらった。
-
- 長野県は突風などが少なく、暮らしやすい。
 - 他県に比較し、多様な産業が立地しており、自然環境も良い。
 - 移住者に対し親切で優しいと感じている。
 - 首都圏に比較して、通勤時間などが短く楽である。
 - 燃料代は高いが、概ね物価は安いように感じる。
 - 地域の行政の対応も丁寧である。

5. アンケート並びに情報交換会からの事業の評価

- 転職者へのアンケート結果では、転職後の企業への総合満足度は72.2%と高く、「労働条件・待遇」など勤務実態に関する入社前後のギャップでもおよそ7割が無いと回答するなど、マッチングが全般的に上手く機能していることが分る。
- 特に「仕事内容」で満足している転職者は最も多く、「やりたい仕事があったことから転職をした」と回答した者の入社前後のギャップが全くない等、本事業の「仕事」に関する転職希望者への情報提供は円滑であることもうかがえた。
- 情報交換会でのグループ討議では、「専門知識・技術を活かしたい」という仕事面の要望に加え、子育てに良い環境、ワークライフバランスも取り戻したいという生活面の要望を叶えることができ、長野県への移住・転職に満足という意見が多かった。
- 転職者の企業マッチングや移住に関して、長野県プロフェッショナル人材戦略拠点と長野県、並びに各市町村、そして銀座NAGANO間での円滑な連携も聞かれた。
- 一方、「人事制度」について、改善を望む声は多く、県内企業の公平公正な人事評価・処遇への取り組みが求められる。

- 社員のモチベーションを高めるためには、公平公正な人事評価・処遇は不可欠であり、今後、中途社員を採用していくためにも、今般の「働き方改革」を実現するためにも長野県企業に必要な要件と考えられる。
- さらに、勤務先企業に対して「不満」とする回答も3名おり、直接内容を確認し対応を検討するとともに、今後の取り組みに活かしたい。
- 地域・行政に対する満足度も大層は高いものであったが、県内都市部での交通渋滞や各地での公共交通網の不足、豪雪地での融雪など、今後の交流人口・定住増加に向けてのインフラ整備の課題も提示された。また、転職者の約半数が家族帯同であることから、生活環境に関する情報提供も重要である。
- これらを総合的に鑑みるなら、長野県プロフェッショナル人材戦略拠点での事業は、181名のプロフェッショナル人材を受け入れることで、県内企業が事業革新や新商品開発などの取組に積極的にチャレンジする「攻めの経営」への転身を図っていくことを可能にした。
- これらの人材の当県への還流は「ひと」と「しごと」の好循環を実現し、地方創生に寄与しているものと評価できる。
- なお、転職者同志の情報交換の必要性を訴える声は多く、本会の成果から鑑みるにも継続実施が望まれる。

プロフェッショナル人材事業・事業報告書
「第1回 転職者情報交換会」報告

平成31年2月

長野県プロフェッショナル人材戦略拠点
一般財団法人 長野経済研究所